

インタビュー

ジュビロ磐田 CRO 山田大記さん

スポーツを楽しめる環境を未来へ

——Jリーグ気候アクションアンバサダーとして活動される中で、気候変動に対する危機感はどうに変化しましたか？

アンバサダーとして学ぶ機会が増え、気候変動は将来の問題ではなく、すでに私たちの生活やスポーツに影響を与えている「今の問題」だと強く感じるようになった。特にサッカーは屋外で行うスポーツです。猛暑や豪雨によって、選手だけでなく、子どもたちやファン・サポーターの皆さんが安心してサッカーを楽しめる環境



わたしも気温上昇を止める。89%の人は山田大記

が脅かされつつあります。スポーツ界も当事者として行動していく必要があると感じています。

——「1.5℃の約束」の今年のテーマである「89%（大多数が対策を望んでいる事実）」についてどのよう感じられますか？

89%という数字を聞く

と、気候変動への対策を望んでいる人は、実は圧倒的な多数派なのだと感じます。一方で、「何をしたらいいかわからない」「自分一人が行動しても変わらない」と感じている人も多いのではないのでしょうか。皆さんの想いが行動に、その行動の積み重ねが気候変

動を食い止める大きな動きにつながることを願っています。

——ご自身が「89%の一人」として普段から心がけている行動があれば教えてください。

100点満点を目指すとは、どうしても窮屈になってしまいます。私は日常の中で無理なく続けられることを意識しています。例えば、マイボトルやエコバッグを持ち歩く、必要以上に物を買わない、食べ物を残さないなど、小さな選択を大切にしています。まずは自分の行動が地球環境にどのような影響を与えるかを知り、それが小さな取り組み

みでも継続することが大切だと思っています。

——気温上昇、気候変動について自ら経験や実感したことがあれば具体的にお聞かせください。

長くプロサッカー選手としてプレーしてきましたが、近年の夏の暑さは明らかに厳しくなっています。真夏のトレーニングや試合では、パフォーマンスだけでなく選手の安全が脅かされています。

気候変動を食い止め、大好きなスポーツを楽しめる環境を未来に残すためには、私たちが変化を起こす必要があります。スポーツに携わる立場として強い危機感と使命感を持っています。

——外でサッカーを楽しむ子どもたちやジュビロ磐田のファン・サポーターに向けて、共に取り組みたいアクションの呼びかけをお願いします。

ジュビロ磐田も、気候変動に正面から向き合い、さまざまな取り組みを進めています。移動方法を少し工夫する、マイボトルを使う、ゴミを減らすなど、できることから始める。その小さな行動が、クラブや地域全体に広がれば、それが大きな力になります。ジュビロ磐田と一緒に、できることから取り組んでいただけたらうれしいです。

[企画・制作／静岡新聞社・静岡放送 TeamBuddyプロジェクト]

温暖化防止 89%が支持

「声の見える化」で行動促す

地球温暖化に歯止めをかけるため、国連広報センター（根本）が所長が新たなテーマで発信を強めている。毎年継続しているキャンペーンに加え、「わたしも、気温上昇を止めた89%の一人です」をメインコピーに掲げ、著名人らが登場する動画を中心に啓発。世界の人口の89%が温暖化対策強化を望んでいると調査に答えた一方、自分を少数派と思い込み行動を起こさない「静かな多数派（サイレント・マジョリティ）」の声の見える化につなげる狙いだ。

キャンペーンは2022年から展開している「1.5℃の約束」——いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。で、今年で5年目。世界の平均気温の上昇を産業革命以前と比較して1.5度に抑えるという、2015年のパリ協定で決められた国際目標に向けて、国連広報センターと「SDGメディア・コンパクト」加盟のメディア有志136社が展開している。

国際学術誌「ネイチャー・クライメート・チェンジ」に24年に掲載された、世界125カ国・約13万人を対象にした大規模な世論調査では、「自国政府に対し気候変動対策の強化を望む」との回答が全体の89%にも上った。同時に、多くの人が「他人は自分ほど関心がないだろう」と、圧倒的な多数が危機感を抱いている事実が、付いていないことも判明した。



根本所長は「フードロスを徹底的に減らす努力をしている」と個人的な取り組みを明かし、一人ひとりが声を上げ、身近な行動を起こす重要性を訴えた。

キャンペーンには俳優でWFP親善大使の杏さんら各界の著名人や、サッカーJリーグ気候アクションアンバサダーの山田大記さん、ジュビロ磐田CRO、同小野伸二さん（Jリーグ特任理事・沼津市出身）らアスリートが登場する動画プロジェクトを展開中だ。「自分も89%の一人」と意志表明することで、「危機感を抱くのは当たり前」という共感を広げ、個人の思いを社会の大きな行動に変えようとしている。

静岡からミライへ「1.5℃の約束」キャンペーン 9/7(月)～9/13(日)



重長智子 (SBSアナウンサー)



久留嶋 怜 (気象予報士)



北村花絵 (テレビ静岡アナウンサー)



小塚恵理子 (気象予報士)

静岡新聞 SBS

テレビ4

「県民の思いを言葉に」

共同CP3年目
出演者も身近な実践

静岡新聞社・静岡放送(SBS)とテレビ静岡は7日から13日まで、共同キャンペーン「静岡からミライへ『1.5℃の約束』」を展開する。局の垣根を超えた取り組みで、今年で3年目。期間中は共通動画の放送や相互番組出演を通じて、県民に具体的なアクションを促す。

出演者自身も身近な実践を重ねている。家庭の生ごみ削減のためコンポストに挑戦するテレビ静岡の北村花絵アナウンサーや、着物のリユースで資源を大切にしている小塚恵理子気象予報士、SBSの重長智子アナウンサーは子どもと海の「ごみ拾い」に積極的に参加し、久留嶋怜気象予報士は旬の食材の地産地消や自転車移動を心がける。「定着を実感する。局を超えて一緒に取り組めるのは心強い」(北村アナ)、「自分ごととして発信していきたい」(重長アナ)と、持続可能な未来への輪を静岡から広げている。

静岡からミライへ「1.5℃の約束」

静岡新聞 SBS



SBSアナウンサー 重長智子

気象予報士 久留嶋 怜

テレビ静岡アナウンサー 北村花絵

気象予報士 小塚恵理子

猛暑、大雨、台風…。

今年の夏、あらためて地球温暖化を実感した方も多いのではないのでしょうか。

私たちのふるさとにある“大切”なものをミライにつなぎたい。

そんな思いから、静岡新聞社・静岡放送とテレビ静岡が手を取り合って展開する

「静岡からミライへ『1.5℃の約束』」キャンペーン。

3年目となる今年は、この取り組みを身近に感じていただけるよう発信していきます。

キャンペーン期間中、テレビ、ラジオや新聞などで、

気候変動に関する知識や暮らしのヒントをお届けします。

ミライのために、私たちにできること。

一緒に考えてみませんか。

キャンペーン実施期間：9/7(月)～9/13(日)

いますぐ動こう、気温上昇を止めるために。

1.5℃の約束



「1.5℃の約束」は、国連広報センターとSDGメディア・コンパクト有志が共同で推進する気候キャンペーンです。静岡新聞社・静岡放送、テレビ静岡は、国連「SDGメディア・コンパクト」に参加しています。静岡新聞社・静岡放送 TeamBuddyプロジェクト

詳しくはこちら
https://shizushinsbs.co.jp/sdgs/campaign

#1.5℃の約束 #気候変動
#静岡からミライへ
#SBSテレビ4 #テレビ静岡

